



プレスリリース

世界の HIV 感染率は横ばい エイズは世界の主要な死亡原因のひとつ、アフリカでは依然、死亡原因のトップ

サーベイランスの改善がエイズの流行に関する理解を深め、推計を大きく見直す結果になった

【ジュネーブ 2007年11月21日】

新たなデータは、世界全体の HIV 感染率 — 全人口に占める HIV 感染者の割合 — が横ばいになっていること、そして新規感染は、HIV 対策の成果もあって、減少していることを示している。しかし、2007年には、世界の HIV 感染者数は3,320万人（3,060万～3,610万人）、年間の新規 HIV 感染者数は250万人（180万～410万人）、エイズによる死亡者は210万人（190万～240万人）と推計されている。

サハラ以南アフリカでの新規感染者数は170万人（140万～240万人）で、2001年以降、大きく減少している。しかし、この地域は依然として最も流行が深刻な地域である。サハラ以南アフリカの HIV 感染者数は2,250万人（2,090万～2,430万人）で、世界全体の68%を占めている。地域内の8カ国で世界の新規感染者とエイズによる死亡者のほぼ3分の1を占めている。

国連エイズ特別総会のコミットメント宣言が採択された2001年以降、東ヨーロッパおよび中央アジア（旧ソ連・東欧）地域の HIV 感染者数は63万人（49万～110万人）から2007年の160万人（120万～210万人）と150%以上の増加になっている。アジアではベトナムの HIV 感染者数が2000年から2005年の間に2倍に増え、インドネシアは最も急速に流行が拡大している国となっている。

これらの推計は国連合同エイズ計画（UNAIDS）と世界保健機関（WHO）が本日発表した報告書（「HIV/AIDS 最新情報（2007年末現在）」）で明らかにされている。

推計方法には改良が重ねられている

疫学的データと分析が改善、充実されたことにより、新たな報告書は世界の流行に関してこれまでより正確に把握できるようになった。こうした新しいデータと方法論の進歩が、これまでの予測の大幅な見直しにつながるようになった。

世界全体の HIV 感染率 — 全人口に占める HIV 感染者の割合 — は横ばいになっているものの、感染者の総数は増えている。これには新規に感染する人に加えて、感染した人が長く生きていけるようになったこともある。

世界の新規感染者数 — 年間の新たな HIV 感染者数 — は1990年代末に300万人超（240万人～

510万人)でピークに達し、2007年には250万人(180万~410万人)、一日平均6,800人以上と推計される。これは流行の自然推移を示すと同時に HIV 感染予防の努力の結果でもある。

エイズ関連疾患による死亡者数は、抗 HIV 薬の延命効果もあって、過去2年間、減少している。しかし、エイズは世界全体でも依然として主要な死亡原因の一つであり、アフリカでは最大の死亡原因となっている。

「これらの改善されたデータによって、私たちはエイズの流行をより明確に把握できるようになった。現状は試練ではあるが、同時にチャンスでもある」として UNAIDS のピーター・ピオット事務局長は次のように語っている。「疑いもなく、私たちは対策の効果を目にしようとしている。新たな感染と死亡は減少しつつあり、HIV 感染率は横ばいになろうとしている。それでも毎日6,800人以上が新たに HIV に感染し、5,700人以上がエイズで死亡している。私たちは世界全体でエイズの流行による打撃を大幅に減らしていくために、より一層の努力を続けなければならない。」

推計の見直し

UNAIDS、WHO、および推計・モデル化・予測に関する検討グループは最近、2001年以降の方法論と調査システムに関し、大幅な見直しを行った。今年の報告書の流行推計には、各国データの収集・分析方法が改善され、同時に流行の自然推移と HIV 感染の分布に関する理解が深まったことが反映されている。この情報は、各国がそれぞれの流行の現状を把握し、より効果的な対策をとるうえで大きな助けになるだろう。

UNAIDS と WHO にはますます多くの国からより充実した情報が寄せられている。過去数年の間に、サハラ以南アフリカやアジアを中心に数多くの国で、HIV サーベイランスの充実強化がはかられ、新たに正確な調査が実施されて、HIV 感染率についてこれまでよりも明瞭な情報が得られるようになった。加えて、アフリカを中心にした30カ国で全国的な地域住民調査が実施された。こうした調査の結果は、似たような流行を抱えながら、同種の調査を行っていない国に対しても、見直しに必要な情報を与えてくれる。治療を受けていない HIV 感染者の予後に関する知見が深まったことも、新たな推定には役立っている。

最新推計では世界の HIV 感染者数は3,320万人(3,060万~3,610万人)に対し、2006年の推計では3,950万人(2,450万~4,710万人)だった。ただし、2007年報告書では、改善された推計方法で過去のデータの見直しも行っており、それによると2006年は3,270万人(3,020万~3,530万人)となる。今回の感染者数減少の最大の理由は、集中的な流行の再検討に伴うインドの推計の見直しにある。インドの修正推計と、サハラ以南アフリカ5カ国(アンゴラ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、ジンバブエ)における推計の重要な修正とを併せて、2006年推計と比べて減少した分の70%を占める。

「信頼のおける公衆衛生データは効果的な HIV/エイズ対策の不可欠な基盤である」と WHO のケビン・デ・クック HIV/エイズ部長はいう。「新たな推計は、過去の推計に比べれば質が高いが、私たちは、保健に関する戦略的な情報をすべての国で多面的に得るために、これからも努力を続けなければならない。」

「HIV の流行を把握するために UNAIDS と WHO が使用しているデータは近年、非常に多様かつ良質

になってきている」とジョンズホプキンス大学ブルンバーグ公衆衛生大学院のロン・ブルックメイヤー教授（医療統計）兼公衆衛生修士プログラム代表は話す。「にもかかわらず、さらに基本的なデータの内容を高めていく必要がある。各国のリスクにさらされやすい人口層における流行をより適切に追跡するために、サーベイランスシステムを拡充する必要がある。」

UNAIDS と WHO が先日開催した疫学推計に関する国際諮問会議で、独立した検証委員会の議長も務めたブルックメイヤー教授は「より正確な推計と傾向の把握は、最終的に予防プログラムの設計と評価の改善をもたらすことになる」と付け加えた。

UNAIDS と WHO は、研究成果や各国の新しいサーベイランスデータを得て、さらに方法論の改善をはかっていく。

進展は見られるが、なすべきことはもっとある

エイズの流行に最も深刻な打撃を受けている15カ国のうち11カ国で、周産期クリニックを訪れる若い妊婦（15～24歳）の HIV 感染率は、2000/2001年以来下がっている。また、予備的な調査のデータでは、数多くの国（ボツワナ、カメルーン、チャド、ハイチ、ケニア、マラウイ、トーゴ、ザンビア、ジンバブエ）で、ハイリスク行動に対する前向きな変化が若者の間で現れていることが示されている。こうした傾向は、最も深刻な国のうち数カ国で予防の努力の効果が表れつつあることを示すものだ。

サハラ以南アフリカ諸国では、治療の拡大と HIV 予防の努力がいくつかの国で成果をもたらしている。ただしアフリカでは、必要な治療が提供されていないので、エイズの死亡率は依然として高い。コートジボアール、ケニア、ジンバブエでは、全国規模で感染率の下降傾向が見られる。サハラ以南アフリカだけでなく、新規 HIV 感染の減少は南・東南アジアでも見られる。とくにカンボジア、ミャンマー、タイが顕著である。

一方で、いくつかの国では、減少傾向からの反転が見られており、HIV 感染予防の努力にもう一度、力を入れ直す必要がある。ブルンジは1990年代末から減少傾向を示していたが、2005年以降は続かず、ほとんどのサーベイランス地点で HIV 感染率が高くなり始めている。タイでは流行を拡大から縮小へと転じることができたが、男性とセックスをする男性の間での HIV 感染率は上昇している。また、薬物注射使用者の HIV 感染率はこの15年間、30%から50%と高いままだ。

UNAIDS と WHO の担当者は、HIV 予防、治療、ケア、サポートというサービスへの普遍的アクセスの実現に向けて、いま直ちに行動すること、および資金の増額をはかることの必要性は、新たな推計によって何ら変わるものではない、と指摘している。

問合せ先

Sophie Barton-Knott | UNAIDS Geneva | +41 22 791 1967 | bartonknotts@unaid.org